

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02221

研究課題名(和文)古注釈・挿絵を手がかりとした中世伊勢物語受容史の研究

研究課題名(英文) Research on the History of the Medieval Reception of the Ise monogatari as Seen Through Old Commentaries and Illustrations

研究代表者

青木 賜鶴子 (Aoki, Shizuko)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号：60180139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：『伊勢物語』の中世の受容史を、古注釈と挿絵を手がかりとして明らかにした。古注釈については、公刊されている代表的な注釈書を中心に、鎌倉・室町時代から江戸時代初期にかけて行なわれていた説を章段(場面)ごとにデータ化して一覧にした。挿絵については『伊勢物語絵巻絵本大成』(角川学芸出版、2007年)を中心にファイル化し、章段(場面)ごとに一覧にして、古注釈のデータと連動させた。これによって、中世の伊勢物語理解がどのように絵に反映したのかを考察し、論文等として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平安時代の物語の中でも伊勢物語は、早くから絵画化されたが、注釈の歴史も深く長く、中世には数多くの古注釈や絵巻・絵本が生み出された。古注釈と絵画は、豊かな伊勢物語受容の歴史を物語るものと言えよう。本研究では、鎌倉・室町時代の注釈を章段(場面)ごとにデータ化して一覧にし、現存する絵巻・絵本の挿絵と連動させて比較検討することにより、挿絵の背景にどのような伊勢物語理解が読み取れるのか、また流派や時代による解釈の相違がどのように絵に反映したのかを追究し、中世の伊勢物語受容の一端を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：My research uses old commentaries and illustrations to lay out the history of how the Ise monogatari was received during the medieval period.

For old commentaries, focusing mainly on the representative published commentaries I digitized the explanations offered from the Kamakura and Muromachi periods through to the early Edo period for each chapter (scene) and summarized them. As to illustrations, I digitized material mainly from the Ise monogatari emaki ehon taisei (Kadokawa Gakugei Shuppan, 2007), created a summary for each chapter (scene), and linked the material to the data from the old commentaries. Doing so allowed me to examine the ways in which medieval understandings of the Ise monogatari were reflected in paintings and present the results in research papers and other forms.

研究分野：日本文学

キーワード：古注 旧注 三条西家 絵巻 絵本

1. 研究開始当初の背景

平安時代の物語と絵画の相関関係については、国文学研究・美術史研究の各方面から進められ、国宝の「源氏物語絵巻」(徳川美術館・五島美術館等所蔵)をはじめ、梵字経刷白描伊勢物語絵巻断簡(逸翁美術館、大和文華館他諸所に所蔵)、「伊勢物語絵巻」(和泉市久保惣記念美術館所蔵)等の平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて製作されたとおぼしい物語絵巻を中心に、現在までに数多くの複製・影印・翻刻・研究書等が刊行されてきた。

伊勢物語の古注釈については、片桐洋一氏『伊勢物語の研究・資料篇』(明治書院、1969)、『鉄心斎文庫 伊勢物語古注釈叢刊』(八木書店、1988~2002)、『伊勢物語古注釈書コレクション』(和泉書院、1999~2006)、『伊勢物語古注釈大成』(笠間書院、2005~)など、古注釈書の影印・翻刻は出されつつあるが、章段ごと・場面ごとの古注釈の集成はまだなされていない。また挿絵に関しては、工芸品を含む作品紹介と論考を収めた伊藤敏子氏『伊勢物語絵』(角川書店、1984)が従来はほぼ唯一の研究業績であったが、応募者も参画した『伊勢物語絵巻絵本大成(資料篇・研究篇)』(羽衣国際大学日本文化研究所編、角川学芸出版、2007)では、現在知られる江戸時代前期までの代表的な絵巻・絵本をすべてカラー図版で掲載し、収録作品について論考と場面解説を加えた。続いて、俵屋宗達とその一派が制作した伊勢物語図色紙の研究を進め、『宗達伊勢物語図色紙』(羽衣国際大学日本文化研究所伊勢物語絵研究会編、思文閣出版、2013)において、現存する59面すべての原寸大カラー図版に作品解説、論考を加えた。これによって伊勢物語絵の体系的な研究の基礎が固まったと言えるが、挿絵の基になった伊勢物語注説の解明は始まったばかりである。

物語の挿絵は、当然のことながら物語本文の解釈に基づく。上記『伊勢物語絵巻絵本大成』においてそのいくつかを指摘したが、一部しか現存しないために上記共著に入れられなかったものや、最近紹介されたものがあり、それらを含めた研究も必要である。たとえば、宗達派の「扇面散図屏風」(東京国立博物館蔵)の伊勢物語図(11図)は、鎌倉時代の絵巻の模写とされる「異本伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)の影響下にあるが、「異本伊勢物語絵巻」の第1段の図様に桜の木を加えたり、「忍ぶ摺りの狩衣」を「懐紙」に変更したりしているのは、扇面画であるゆえの一般化・抽象化と考えられる一方で、「狩衣に書いたのではなく紙に書いて狩衣を帯のように切っつけた」(冷泉家流古注釈など)とする中世の古注釈の影響と考えることもできる。古注釈と挿絵を手がかりとした伊勢物語受容史研究の意義が見出せよう。

2. 研究の目的

鎌倉時代から室町時代の古注釈の注説については、一部は比較され論じられているが、全体について集成した研究は見られない。本研究では、翻刻のある代表的な注釈書を中心に、未翻刻の注釈書のデータを加えて、全体を章段(場面)ごとにテキストデータ化して比較していくことで、それぞれの注説の違いを、より細かな点まで浮かび上がらせたい。また絵については、前記『伊勢物語絵巻絵本大成』にて作成した場面一覧表をもとに、場面ごとに注説と挿絵を統合し比較検討していくことで、注説と挿絵との相関関係を明らかにすることをめざす。

3. 研究の方法

鎌倉・室町時代の伊勢物語注釈書のテキストデータ化、現存する伊勢物語絵巻・絵本のデータ化、その他の注釈書及び伊勢物語絵の調査と複製入手及びデータ化を進め、最終的に章段(場面)ごとのテキストデータと絵のデータの統合を行なう。

1. 鎌倉・室町時代の伊勢物語注釈書のテキストデータ化

鎌倉・室町時代の伊勢物語注釈書は、片桐洋一氏『伊勢物語の研究・資料篇』、『伊勢物語古注釈書コレクション』、『伊勢物語古注釈大成』に主なものが翻刻されているのでこれを利用し、絵のある章段(場面)ごとにまとめる。翻刻のない注釈書は影印または複製を入手し、翻刻してデータに加える。

2. 現存する伊勢物語絵巻・絵本のデータ化

絵については、前記『伊勢物語絵巻絵本大成』所収の絵巻・絵本や、展覧会図録・全集などに収録されているものについて、スキャナ等によりデータ化し、章段(場面)ごとの画像データを作成する。

3. 注釈書及び伊勢物語絵の原本調査と複製入手及びデータ化

1.及び2.に収録された注釈書・伊勢物語絵の原本調査を行なう。あわせて、収録されていない伊勢物語関係の絵入本及び注釈書を調査し、撮影等により複製を入手して、データ化する。

4. テキストデータと絵のデータの統合、それによる考察

以上のテキストデータ・画像データを章段の場面ごとに集成し、まとめる。この基礎データにより、章段や場面ごとの注説の違いを具体的に考察したい。

4. 研究成果

1. 鎌倉・室町時代の伊勢物語注釈書のテキストデータ化

鎌倉時代の注釈書及びその影響下にある注釈書については、主として公刊されている代表的な注釈書の翻刻を利用し、予備調査及びデータ化の試験を経て、スキャン→OCRソフトによる読み取り→テキストデータ化→翻刻及び原本写真との照合・確認の手順で進めた。片桐洋一氏『伊勢物語の研究・資料篇』所収の「冷泉家流伊勢物語抄」、「書陵部本和歌知類集」、「島原文庫

本和歌知頭集』、『伊勢物語古注釈大成』のうち、第1巻所収の注釈書3点、第2巻所収の注釈書4点、『伊勢物語古注釈書コレクション』第1巻所収の注釈書6点、慶應義塾図書館蔵「定家流伊勢物語註」(『国文学論叢』第3輯に翻刻)、広島大学蔵「千金莫伝」(『広島平安文学研究会翻刻平安文学資料稿』第3期第1巻に翻刻)等である。

室町時代の注釈書については、まず、一条兼良「伊勢物語愚見抄」、宗祇講釈の肖柏の聞書「伊勢物語肖聞抄」(以上片桐洋一氏『伊勢物語の研究・資料篇』所収)、三条西実隆講釈の清原宣賢の聞書「伊勢物語惟清抄」(『伊勢物語古注釈大成』所収)などの代表的な注釈書をデータ化し、順次、『伊勢物語古注釈大成』、『伊勢物語古注釈書コレクション』、『鉄心斎文庫 伊勢物語古注釈叢刊』所収の注釈書を追加した。

中世の伊勢物語注釈の集大成である北村季吟著『伊勢物語拾穂抄』延宝八年版本と、それに先立つと考えられる写本の『伊勢物語拾穂抄』(異本)については新たに翻刻し、近く公刊する予定である。『伊勢物語拾穂抄』の版本は翻刻があったが入手し難く、写本の『伊勢物語拾穂抄』(異本)は鉄心斎文庫本が紹介されていたものの(『鉄心斎文庫伊勢物語古注釈叢刊』に影印で収録)、翻刻は初めてである。今回の翻刻では、鉄心斎文庫本の親本と考えられる大阪大学附属図書館本を底本とし、他本と校合して最善の本文を示すようにした。

2. 現存する伊勢物語絵巻・絵本のデータ化

前記『伊勢物語絵巻絵本大成』所収の絵巻・絵本のほか、伊藤敏子氏『伊勢物語絵』、各種展覧会図録、雑誌の特集号、美術全集等所載の伊勢物語絵等について、スキャナを用いてデータ化し、章段(場面)ごとにまとめた。

3. その他の注釈書及び伊勢物語絵の調査と複製入手及びデータ化

1.で翻刻を利用した注釈書や絵入本の原本調査のほか、機会のあるたびに注釈書や絵入本の原本調査を行なった。調査の機会に恵まれたおもな伊勢物語絵入本と注釈書は、慶應義塾図書館蔵「伊勢物語小絵断簡」、同「定家流伊勢物語註」、和泉市久保惣記念美術館蔵・重要美術品「伊勢物語絵巻」及び「伊勢物語絵断簡(白描絵断簡)」、静嘉堂文庫蔵「伊勢物語絵巻」(断簡)、東京国立博物館蔵・住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」、中之島香雪美術館所蔵「伊勢物語色紙」、岡山県立博物館寄託・個人蔵「伊勢物語図屏風」等である。さらにアメリカ・インディアナポリス美術館及びクリーブランド美術館の蔵品調査の機会に恵まれたので、伊勢物語を画題とする屏風・掛幅・色紙等を調査し、複製を入手した。このほか国内の美術館・博物館・図書館等で原本調査と複製入手を行なった。

4. テキストデータと絵のデータの統合、それによる考察

以上のテキストデータ・画像データを章段の場面ごとに集成し、まとめた。この基礎データにより、章段(場面)ごとに集成したテキストデータを個々に比較しつつ、古注釈書における伊勢物語理解の諸相、章段や場面ごとの注説の違いを具体的に分析することができた。

具体例をあげる。第12段、武蔵野へ逃げた男女が国守に捕まえられる話で、「みちくる人、この野に盗人あなりとて、火つけむとす」の「みちくる人」の解釈は、一条兼良の『愚見抄』など古来は「満ち来る人」であり、「野に満ち満ちてくる人、たくさんの人」の意とされていた。天理図書館蔵宣賢自筆本『惟清抄』によれば、三条西実隆も「満ち来る人」であったが、三条西公条は「満クル人・道クル人、両説」とし、細川幽斎の『闕疑抄』に受け継がれる。伊勢物語絵のうち、比較的多人数の追っ手を描くものとして「異本伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)があるが、大半の絵は追っ手は数人である。住吉如慶筆の「伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)を見ると、追っ手は数人で、野原の中に道らしきものを描き、旅装束の男性二人が歩いている。武蔵野の中にわざわざ道を描くものはほかに知られず、如慶筆「伊勢物語絵巻」は、「道をやってくる人」の理解に基づくと考えられる。

また、第23段、高安の女のところに浮気に行く男を心配して女が「風吹けば」の歌を詠む場面は、歌を詠む女と、それを前裁から垣間見する男を描くのが一般的である。この女の側に琴が描かれるのは『古今和歌集』の同じ歌の左注にもあって自然だが、提子を描く(大英博物館蔵『伊勢物語絵巻』など)のは奇異である。しかし『大和物語』では、歌を詠んだあと女は嫉妬の炎を金椀に入れた水で冷やしたとあり、『伊勢物語宗印談』に、女が「かなひさげ」に水を入れて胸の上に置いて冷やした、と注釈することと無縁ではあるまい。同様の話は、小異はあるが室町時代物語『かわちかよひ』『小式部』『雀さうし』や幸若舞曲『伏見常盤』などに見られ、そのうちのいくつかは『伊勢物語』の話として引用するのは注目される。寛永整版本「伏見常葉」の挿絵には、垣間見する男と、横になって提子で胸を冷やす女が描かれている。『扇の草子』の中にも、この歌を横になる女の絵と共に載せるものがあり(根津本)、『大和物語』の影響を受けて変容したイメージによる享受のありさまがうかがえる。

以上の研究により、鎌倉・室町時代の注説の細かな相違が明らかになったが、それがそのまま絵画表現に直結するわけではない。絵画表現のどこまでを解釈の反映とみるかについては、今後も追及すべき課題であると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 青木賜鶴子	4. 巻 45号
2. 論文標題 『伊勢物語拾穂抄』無刊記本の一本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.24619/00003876	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木賜鶴子	4. 巻 第95巻第1号
2. 論文標題 『伊勢物語』の本文・解釈と挿絵 「白描伊勢物語絵巻」第二十七段の場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木賜鶴子	4. 巻 27
2. 論文標題 扇絵の中の『伊勢物語』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『百舌鳥国文』	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.24729/00016664	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 青木賜鶴子
2. 発表標題 『伊勢物語』の解釈と挿絵 住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」を中心として
3. 学会等名 中古文学会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木賜鶴子
2. 発表標題 「伊勢物語拾穂抄」について
3. 学会等名 国文学研究資料館基幹研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 青木賜鶴子, 赤澤真理, 泉紀子, 大口裕子, 河田昌之, 伊永陽子, 田中まき, 山本登朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 『住吉如慶筆 伊勢物語絵巻』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----